



格付評価で「AA」(安定的)を取得

(株)格付投資情報センター(R&I)に審査を依頼し、発行体格付評価でAA(ダブルAフラット)、格付の方向性は「安定的」を取得しました。AAは日本私立学校振興・共済事業団と並ぶ格付です。

財政の健全性について、第三者である外部機関に事業基盤の安定性が高く評価されたといえるでしょう。

なぜ、信用格付を取得するのか？

昨今は、民間企業に限らず、学校法人でも信用格付を取得しています。しかしながら、学校法人以外の一般の公益法人で信用格付を取得している組織はあまり聞かれませんが、当財団は、公益財団法人に移行して2年目を迎え、公益法人の事業運営に関する客観的で簡明な判断材料として「信用格付」を取得することを検討しました。

そもそも信用格付とは、債券などを発行する際の債務履行能力を評価するものです。当財団は、長期借入をするような状況にありません。しかし、公益法人には、ガバナンス、内部統制システムなど、適切な運営を行う機能が欠かせません。公益認定で内閣府より公益性が認められたとはいえ、当財団の事業や財務のリスクがどのような状態であるか等について、客観的な判断材料を積極的に示し、維持会員をはじめとするステークホルダーから信頼を得ることは、当財団にとって重要な使命といえるでしょう。

信用格付の取得に当たっては、当財団から格付投資情報センター(R&I)に各種資料を提出し、常務理事や事務局長などが面談を受け、R&Iの格付委員会での討議の上、信用格付が決定されました。信用格付においては、「信用力は極めて高く、優れた要素がある」という[AA]を取得しました。また、信用格付の中期的な方向性についての意見は、「安定的」となりました。

このたび、信用格付を取得して説明責任の一端を果たすことができましたが、これからも当財団の使命を全うすべく、業務改善を推進してまいりますので、ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

格付符号と定義

符号	定義
AAA	信用力は最も高く、多くの優れた要素がある。
AA	信用力は極めて高く、優れた要素がある。
A	信用力は高く、部分的に優れた要素がある。
BBB	信用力は十分であるが、将来環境が大きく変化する場合、注意すべき要素がある。
BB	信用力は当面問題ないが、将来環境が変化する場合、十分注意すべき要素がある。
B	信用力に問題があり、絶えず注意すべき要素がある。
CCC	信用力に重大な問題があり、金融債務が不履行に陥る懸念が強い。
CC	発行体のすべての金融債務が不履行に陥る懸念が強い。
D	発行体のすべての金融債務が不履行に陥っているとR&Iが判断する格付

※AA格からCCC格については、上位格に近いものにプラス、下位格に近いものにマイナスの表示をすることがあります。プラス、マイナスも符号の一部です。詳細はR&IのWebサイトを参照してください。
(<https://www.r-i.co.jp/jpn/cfp/about/definition/>)

格付理由(格付投資情報センター(R&I)ニュースリリースより抜粋)

私立大学退職金財団の事業基盤の安定性は非常に高い。18歳人口の減少が小康状態となっていることもあって、国内大学法人の財政状態は全体では緩やかながら改善が続いている。掛金の負担能力という面で、しばらく不安はない。また、事業環境が急激に変化する業態ではないので、退職者が想定以上に大きく変動することも考えにくい。

会員である私立大学等が私立大学退職金財団に支払う掛金は、国からの経常費補助金の対象になっており、加入への強いインセンティブがある。公益財団法人だけに、大きな黒字の計上を制限されているが、負債コストがゼロであるのに加え、掛金率の柔軟な見直しなど、収支を長期的に安定させる仕組みを備えており、その実効性にも特段不安はない。

財務規律は厳格である。過去に運用資産が含み損を抱えたことがあり、運用規定を変更。現在は日本国債を中心に限定的な信用リスクしか取っていない。財政方式は、保有資産として退職資金交付額の1年分を保有する修正賦課方式を採用している。退職資金交付額が急激に増加する可能性は低く、財務基盤を大きく毀損する懸念はない。流動性も潤沢だ。

▶ 財政に関する主なヒアリングの内容

Q 掛金率の変更など大きな制度変更の際に、維持会員とのコミュニケーションで留意していることは？

A 重要な制度改正については、数次にわたる理事会等での報告・審議を経て実施し、維持会員に退職資金の将来推計に基づく長期計画を提示するなど慎重な対応に留意するとともに、多様な維持会員の状況を勘案しつつ「公平の理念」に基づく事業運営を行っています。

Q 私立大学等の先行きの見通しと当財団への影響は？

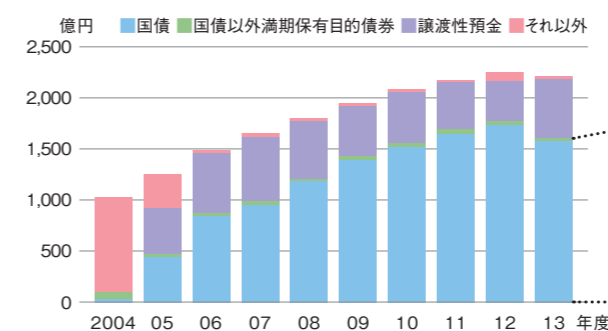
A 18歳人口の減少傾向が見込まれているが、私立大学等では、教育環境の充実、地域との連携強化、社会人学生・留学生の受け入れ促進等の施策により、大学教育の魅力向上を図り、その影響をできる限り回避されるものと考えています。一方、当財団では、私立大学等の経営状況に基づく各種のリスクを軽減するため、事業運営において各種施策を講じており、今後とも、適時に適切な施策を実施していくために、必要な対応策を検討します。

▶ 保有資産の運用状況と財務規律(参考資料)

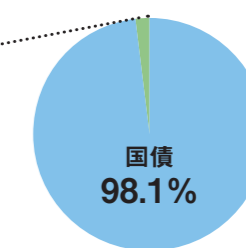
資産の運用に関する基本方針(要旨)(平成23年3月9日第91回理事会制定)

- ①(効率的な運用)資金は、あらかじめ、発生時期、必要資金額等の見通しに基づき、運用計画案を作成し、効率的に運用しなければならない。
- ②(信用リスクの重視)元本が保証されることを旨として、資金を安全に運用するため、特に、信用リスクを重視しなければならない。
- ③(資金の運用期間)運用期間は、原則として、10年を上限とする。
- ④(運用対象)運用する債券は、原則として、国債、地方債及び政府保証債とする。ただし、これらに準ずる債券については、その運用資金額を運用財産総額の20%の範囲内とする。
- ⑤(資金の運用の原則)運用にあたっては、満期まで保有することを原則とする。ただし、退職資金交付事業の支出に充てる必要がある場合及び資金の安全性を確保するためにやむを得ないと理事長が判断した場合においては、中途換金もしくは入替えを行うことができる。

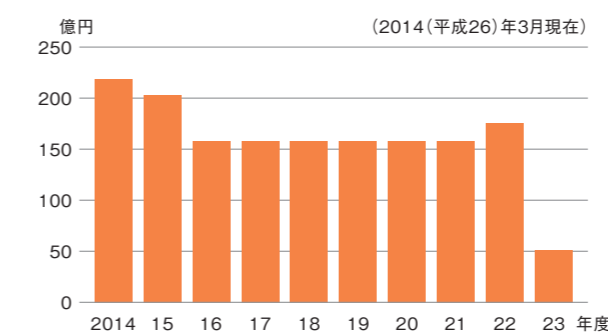
保有資産の推移と内訳



満期保有目的債券の内訳と評価損益 2013(平成25)年度 1,607億円



満期保有目的債券の償還予定



債券の種類	帳簿価額	時価	評価損益
利付国庫債券	1,577.0	1,624.4	47.5
私学振興債券	29.0	30.0	1.0
中国電力債	1.0	1.1	0.1
合計	1,607.0	1,655.5	48.6

(単位:億円)
(2014(平成26)年3月31日現在)